

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	道徳	種類	8種
--------	----	----	----

( 2 ) 枚中( 1 ) 枚

採択基準	基本観点	2 東書	11 学図	17 教出	38 光村
		道徳 101,201,301,401,501,601	道徳 102,103,202,203,302,303,402,403,502,503,602,603	道徳 104,204,304,404,504,604	道徳 105,205,305,405,505,605
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	巻末に、付録「つながる 広がる」のページを配置し、道徳の学習で考えたことを生かしたり、郷土や日本のことなどを取り扱い、地域社会への理解を図ったりするなど工夫している。また保幼小接続の視点を持った構成となっている。 巻末に、「学習の振り返り」のページを配置し、学習の記録と学期ごとの振り返りができるように工夫している。	本冊と別冊によって構成されている。 本冊は教材順ではなく内容項目ごとのページで構成している。また、別冊「まなび」は、本冊の教材について考えを深めたり、考えを生かしたりする発問や活動などで構成している。 別冊「まなび」の巻末に「保護者の方へ」というページを配置し、家庭との連携を図るように工夫している。	本編では、2時間で扱ってもよい教材を複数配置し、1時間で扱った場合のために、本編の他に、補充教材を配置している。また、重点内容項目としてユニットを組み、意識的に学習に取り組める工夫をしている。 巻末で、「学びの記録」のページを配置し、学期ごとや1年間の学習の振り返りができるように工夫している。	読み物とコラムを合わせて学習ができるまとまりを設定している。また、3年生以上で長期休業中の家庭や地域での調べ学習につなげるコーナーを設けている。 学習のまとめを3つの時期に分け、教材ごとに「学びの記録」で視点を明確にした学習の振り返りができるように工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	教材ごとに、自己を振り返る発問を設定している。1, 2年生では「はじめに」で自己を振り返る発問を、3年生以上では、「考え方」で、教材について考えさせる発問と自己を振り返る2つの発問をも設定している。	別冊「まなび」には教材ごとに、内容について考えさせる発問と自己を振り返る発問を設定している。また、教材内容の発問につながるような活動を促す工夫もしている。	各教材の「学びの手引き」には、複数の発問を設け、段階を踏んで話し合いを深めていくよう配慮している。 挿絵の台詞を考える形式で、教材への導入や自己を振り返り、話し合う活動などをするよう工夫している。	教材ごとに、複数の発問を設定し、教材の内容やそこから考えられることなどを通して、理解を深める工夫をしている。また自分のこととして捉え自己を振り返らせる発問を設定している。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方にについての考えを深めるための工夫	教材の冒頭部分に、学習のめあて(視点)を明記している。 また、3年生以上では、教材の最後に、考えを深めたり、自分を振り返ったりする発問を設定し、物事を多面的・多角的に考えができるよう工夫している。	本冊には学習のめあて(視点)を明記せず、別冊に明記している。 また、別冊「まなび」では、活動のマークに基づいて、様々な学習活動を通して、繰り返し考えを深めたり、自分を見つめたりする工夫をしている。	教材の冒頭部分に、学習のめあて(視点)を明記している。 また、教材の最後に「考え方・深めよう・つなげよう」などのコーナーを設定して、考えを深める工夫をしている。	教材の冒頭部分に、学習のめあて(視点)を明記している。 教材の最後に「考え方・話しあおう」のコーナーを設定して、考えを深める工夫をしている。
	(3) 児童が主体的に学習に取り組むことができる配慮	「道徳の学習を進めるために」を初めに提示している。また全ての教材について考える視点を設定している。さらに「考えるステップ」の欄を設けている教材もある。 次に「出会い・ふれ合う」「つながる・広がる」「問題を見つけて考える」「いじめのないせかん」「情報モラル」の5つのマークを付け明示している。 最後には、自己評価の欄や学期ごとに学習を振り返るページを設けている。	「道徳の学習を始めよう」を初めに提示している。また別冊、「まなび」には、考える視点を明記し、自己を振り返る欄を設定して、考えを深められるよう配慮している。 項目ごとにコラム欄を設けるなど、学習したことを深める工夫をしている。本冊では、関連教材やコラムを「ともにいきる」として掲載している。 自己評価の欄や、教材とつなげて考えを深めるページを設けている。	道徳の時間の進め方(1時間の授業の流れ)を、初めに提示している。 また全ての教材について考える視点を「学びの手引き」として設定している。 体験を通して人間としての行動について考えを深める教材には、スキルのマークを付けている。 最後には、「学びの記録」と年間の学習の振り返りをする欄を設けている。	「道徳の時間」を2年生以上では初めに提示している。 教材文の初めの部分には導入として考えられることを、最後に考える視点「かんがえよう・はなしあおう」を設定している。 2年生以上で道徳の授業での話し合いの仕方などが見開き2ページで掲載されている。また「学びの記録」を書くページを設け1時間ごとに学んだことや自己評価の欄を設けている。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、次に明示し、3年生以下では情報モラルの素地を、4年生以上ではインターネットや携帯電話、著作権、SNSなどを扱った教材などを取り扱っている。 現代的な課題については、オリンピック・パラリンピック教育、キャリア教育、安全・防災教育を取り上げている。 いじめ問題への対応教材については、関連する複数の教材のまとめを目次においても明示している。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、次に明示し、インターネットやスマートフォン、著作権やSNSなどを扱った教材などを取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応、健康教育、食育、福祉に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など多岐にわたっている。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、低学年では情報モラルの素地を、3年生以上ではインターネットや携帯電話、著作権、SNSなどを扱った教材を取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応、「生命の尊さ」「情報モラル」を重点的に学習するテーマとして設定するだけでなく、食育、防災教育、法教育、健康教育なども扱うなど多岐にわたっている。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、コラムと教材と合わせて学習できるよう工夫している。 情報モラルの学習については、低学年では情報モラルの素地を、3年生以上ではインターネットを中心とした情報モラルについての学習を取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応、環境教育、国際理解教育、福祉・共生をコラムでも扱うよう工夫している。また、キャリア教育、食育、伝統文化や安全教育なども扱うなど多岐にわたっている。
	(5) 他の教科等との関連	本編の巻末に「つながる・広がる」を設け、他教科・領域との関連を明示し、学びを深めるきっかけとしている。また、3年生以上では、「つながる・広がる」というマークを付けて、他教科・領域との関連を目次にも明示している。	本冊「きづき」に「ともにいきる」をテーマに学習を広げるコラムが掲載し、別冊「まなび」には、コラムや問題提示、書き込み欄を設定し、他教科・領域と関連させて学びを広げたり深めたりすることができるよう工夫している。	教材ごとに、関わりのある他教科・領域を一覧表にして明示している。また、体験を通して人間としての行動について考えを深める教材には、「スキル」というマークを目次に明示している。	教材ごとに、関わりのある他教科・領域を一覧表にして明示し、「つなげよう」で他教科・領域への関連を明示している。またキャラクターを用いて他の学習と関連付けて考える視点を明示している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	多くの挿絵を使い、教材の内容や学習の進め方を説明した上で、教材に入っている工夫をしている。 固有の人や物については写真で紹介し、巻末の付録で多数の写真や資料を掲載し、教材が理解しやすくなるよう配慮している。 当該学年の前までの漢字を使用し、字体や大きさにも配慮をしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	本冊「きづき」に新聞記事や実際のできごと、マンガや写真、大きなイラスト、グラフなど、様々な方法で提示されている。また全教材にQRコードによる補助資料はある。 別冊「まなび」には、活動マークで学習の内容と進め方をわかりやすく示している。 漢字に振り仮名をつけ、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	子ども同士の会話形式で、話し合いのヒントを提示している。 児童のイメージを広げるイラストや写真、図画が適所に配置され、教材が理解しやすくなるよう工夫している。 当該学年の漢字には初発音所に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	コマ漫画風に設定された教材や絵や写真を多く活用した教材などを取り入れるよう配慮している。またQRコードによるデジタルコンテンツを用意している教材もある。 「学びの記録」のページには、視覚的に季節感を感じられる工夫をしている。 1年生は平仮名表記を基本とし、2年生以上は当該学年の漢字にすべて振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮している。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。

採択基準	基本観点	116 日文	208 光文	224 学研	232 廣あかつき
		道徳 106,107,206,207,306,307,406,407,506,507,606,607	道徳 108,208,308,408,508,608	道徳 109,209,309,409,509,609	道徳 110,111,210,211,310,311,410,411,510,511,610,611
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	本冊と別冊によって構成されている。 本冊には、本編の教材を入れ替えて学習できるように、補助教材を設定している。また別冊「道徳ノート」には、教材ごとの自己評価欄を配置し、学習の振り返りができるように工夫している。 巻末に心に残ったお話とその理由を書く欄を配置し、学期末の振り返りを行うことができるよう工夫している。 保幼園から小への円滑な接続の視点が見られる。	本冊の巻末に、補助教材を配置し、本編の教材を入れ替えて学習できるように設定している。また、「重点主題教材」を設定し、同じ内容項目について、複数の教材を続けて学習することができるようしている。 巻末に「学びの足あと」のページがあり、授業の記録とまとめができるように工夫している。	同じテーマの教材でいくつかの内容項目を配列し、統合して学習することによって考えを深めるユニット教材として「いのち」「生き方」を重点設定している。また、保護者と連携するページを各学年教箇所設定している。 巻末に「心の宝物」のページがあり、心に残った話などを記録できるように工夫している。	本冊と別冊によって構成されている。別冊「道徳ノート」は、本冊の教材順ではなく内容項目ごとのページで構成されていて、重点主題を設け、同じ内容項目について、複数の教材を統合して学習できるように設定している。 別冊「道徳ノート」の巻末に学習を記録したり、「心のしおり」という学校と家庭が連携したりできるように工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	教材ごとに、導入のための発問と教材内容について考え方させる発問と自己を振り返らせる発問を設定している。 別冊「道徳ノート」には、友達の考えなどを書く欄も配置し、より考えを深められるよう工夫している。	教材ごとに、教材の内容について考え方させる発問と自己を振り返らせる発問を設定している。またいくつかの教材において、学習後に心を耕す活動を取り入れている。	教材ごとに、教材の内容について考え方させる発問や自己を振り返らせる発問を設定している。またいくつかの教材において、学習後に心を耕す活動を取り入れている。	教材ごとに、教材の内容について考え方させる発問や自己を振り返らせる発問を設定している。 別冊「道徳ノート」では、いくつかの教材をまとめ、1つの内容項目について自己を振り返る形式をとっている。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考え方を深めるための工夫	教材の冒頭部分に、学習のめあて(視点)を明記している。 また、教材の最後に「かんがえてみよう」「みつめよう 生かそう」のコーナーを設定して、考え方を深める工夫をしている。	教材の冒頭部分に、学習のめあて(視点)を明記している。 また、教材の各ページの下欄にキャラクターの言葉や発問を配置して、読み進めながら考え方を深めていくよう工夫している。	学習のめあて(視点)は明記していない。 教材の最後に「かんがえよう」のコーナーを設定して、考え方を深める工夫をしている。教材によっては、コーナーを設け、物事を多面的・多角的に考えることができるよう工夫している。	教材の冒頭部分に学習のめあて(視点)を明記している。 教材の最後に「考え方 話し合おう」のコーナーを設定して考え方を深める工夫をしている。また別冊「道徳ノート」には、教材に関連した発問を設定し、書き込めるように工夫している。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「道徳の学び方」を初めに提示している。 教材文では、あらすじや主な登場人物を提示し、最後に「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」を設定し考える視点を示している。 体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れている教材には、マークを付けている。 別冊「道徳ノート」では、最後に「道徳の学習で学んだこと」を振り返って書く欄を設けている。	道徳の時間の進め方を初めに提示している。 全ての教材で、考えるポイントを同じキャラクターを使って示している。また、自分の考えをまとめ、広げる視点も示している。 同じ内容項目の教材を統合して学習することで、学習内容をより深め、多方向からの学びができるよう工夫している。 最後には評議につなげる「学びの足あと」のページを設けている。	道徳の時間の進め方を、初めに提示している。 全ての教材について考える視点を設定している。 体験を通して、人間としての行動について考え方を深める教材やより深めたり広げたりする教材にはマークを付けている。 最後には評議につなげる「心のたからもの」のページを設けている。	教材文において、考える視点を提示している。また3年生以上では、学習を広げる方向を示している教材もある。 別冊「道徳ノート」には、内容項目についての考え方を示している。 内容項目ごとにまとめて、以前に学習したときと比べられるよう工夫している。 別冊「道徳ノート」の巻末には、学習の記録として毎時間振り返ってまとめる欄を設けている。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、目次に明示し、低学年では、情報モラルの素地を、3年生以上では情報モラルについての学習を取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応を複数の教材とコラムで設定し、目次にマークを付けている。また、キャリア教育、伝統文化教育、国際理解教育、法教育、環境教育など、多岐にわたる教材を組んでいる。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、目次に明示し、インターネットやスマートフォンについて、5.6年生では、著作権、掲示板への書き込みについての学習を取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応や伝統文化教育、防災教育、キャリア教育、主権者教育など多岐にわたり、いじめ問題では、身近な例をもとにして考えるページを掲載している。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、目次に明示し、教材文にも印がついている。スマートフォン、インターネット、個人情報などについての学習を取り扱っている。 現代的な課題については、いじめ問題への対応や伝統文化教育、国際理解教育、社会参画に関する教育、福祉教育、環境教育などの教材を多く取り入れるなど、多岐にわたり、いじめ問題では、身近な例をもとにして考えるページを掲載している。	情報モラルに関する指導や現代的な課題については、内容項目との関連を踏まえつつ取り扱っている。 情報モラルの学習については、低学年では、情報モラルの素地となる学習を、3年生以上では巻末にも情報モラルの学習を特設している。 現代的な課題については、いじめ問題への対応や伝統文化教育、国際理解教育、消費者教育、食育、環境教育、健康教育、社会参画に関する教育など、学年が進むにつれて多岐にわたる教材を組んでいる。
	(5) 他の教科等との関連	教材ごとに、関わりのある他教科・領域を一覧表にして明示している。また、教材とつなげて考え方を深める学習の手引きや「心のベンチ」というページに、関連した内容を取り上げている。	教材以外にも「コラム」として関連する教材を提示している。また、各教材の「広げる」では、教材に関連する他教科・領域の活動を提示している。	「やってみよう」「広げよう」「つなげよう」のページの中で、教材に関連する教科・領域の情報を提示している。	各教材の最後に「考え方 話し合おう」の「学習を広げる」を設け、関連する本を紹介したり、身近な生活の中で自分の活動を振り返るよう促したりしている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	各教材の題名とともに、登場人物の紹介やあらすじが教材の冒頭に掲載され、教材に入りやすい工夫をしている。また絵を使って、書き出しやクイズ形式で、考える場面を設定している。 児童の読みを助けるために、当該学年以上の漢字にはすべて振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	キャラクターを考えるためのポイントや大切な見方を書き出しを使って示している。また、イラストを使って、書き出しやクイズ形式で考え方を深める場面を設定している。 前学年までの漢字を使用し、3年生まではすべての漢字に振り仮名を付けている。 また、登場人物を紹介したり、わかりにくい言葉には、脚注で解説したりしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	大きなイラストが多くあり、教材に親しみを持つよう工夫している。また、知識を広げて教材理解を深められるような資料を提示している。またQRコードによるデジタルコンテンツを用意している教材もある。 漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。また見出しや本文は、平易で理解しやすく記述したりしている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	コマ漫画風に設定された教材があり取り組みやすいように工夫している。また知識を広げて教材理解を深められるような資料を提示している。 漢字に振り仮名を付け、振り仮名の字体や大きさにも配慮をしている。また4年生までは発達段階に即した分かりやすい表現を用い、5年生以降は、学習上説明を要する文言や固有名詞などに脚注を付けている。 カラーユニバーサルデザインについて配慮している。